

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第3回上尾市産業振興会議
開 催 日 時	令和5年3月17日(金) 9:50~11:20
開 催 場 所	上尾市役所 本庁舎3階 庁議室
議長(委員長・会長)氏名	河藤 佳彦
出席者(委員)氏名	河藤 佳彦、飯田 裕之、石川 泰正、北川 景子、吉田 裕、 田中 宏幸、井上 克典、石川 由貴、大谷 聡、堀口 慎一 (オブザーバー) 佐藤 公保
欠席者(委員)氏名	大木 保司、松本 猛、國嶋 隆幸、荒井 薫、樽井 花子、竹中 健司
事務局(庶務担当)	環境経済部次長 荒井 商工課長 小川、商工課副主幹 吉備、商工課主任 荒井 農政課長 東、農政課主幹 菅原、農政課主査 加藤
会 議 事 項	1 開 会 2 議 題 (1) 令和4~5年度の産業振興施策について (2) 令和5年度提言書のアウトラインについて (3) その他 3 閉 会
会 議 資 料	別紙のとおり
<p>議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年4月17日</p> <p style="text-align: right;">会長の署名 <u>河藤 佳彦</u></p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 <u>飯田 裕之</u></p>	

議 事 の 経 過

事務局	<p>1 開 会</p> <p>定刻前ではございますが、本日出席予定の委員が全員お揃いになりましたので、「令和4年度第3回上尾市産業振興会議」を開会いたします。</p> <p>当初、第3回会議は2月10日開催ということでご案内しておりましたが、雪の影響で急遽延期とさせていただきます。私どもの判断に遅滞が生じ、ご連絡が直前になりましたことを深くお詫び申し上げます。</p> <p>改めまして、本日の司会を務めさせていただきます、商工課長の小川でございます。事前に委員の皆様へ配付しました次第に沿って進めさせていただきます。ご協力くださいますようお願いいたします。</p> <p>議題に入る前に、前回の会議において、委員の皆様の互選により、副会長として上尾商工会議所副会頭の飯田様を選任させていただきました。当日は残念ながらご欠席でございましたので、恐れ入りますが、改めて自己紹介と副会長就任のご挨拶をいただきたいと思っております。</p> <p>飯田副会長、お願いいたします。</p>
副会長	(副会長挨拶)
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは議題に入りますが、本日は令和5年度の提言書のアウトラインについて、委員の皆様からご意見をいただければと思います。また、今年度実施している産業振興施策の進捗状況に加え、前回お示ししました、令和4年度の提言に基づき予算要求した産業振興施策、現在議会上程中でございますが、その内容について改めてご案内させていただきます。</p> <p>なお、本日の会議でございますが、本会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の過半数の出席がありましたので、有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは、河藤会長に進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>2 議 題</p> <p>それでは、次第の2「議題」に入ります。</p> <p>議事に入る前に、議事録については前回の会議でご了承いただいておりますが、議事録署名人につきましては、名簿順に指名させていただくこととしました。ご欠席の場合は1つ次の方、次回ご出席だった場合は遡ってということでご了解をいただいていたと思います。前回が大木委員にお願いいたしましたので、名簿を遡って飯田副会長にお願いしたいと思っております。</p> <p>さて、本日の議題ですが3点ございます。ご提案なのですが、順番を入れ替えて、先に「令和4～5年度の産業振興施策について」の議題で、まず現在の進捗状況を確認し、それを把握した上で、次に「令和5年度提言書のアウトライン」という順番の方が共通認識を持つという点では良いかなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	(異議なしの声)
会長	<p>ありがとうございます。それではその順番で進めさせていただきます。</p> <p>進め方ですが、「産業振興施策」については現在の状況ということで自由に質疑応答していただくという形とし、「提言書のアウトライン」について</p>

委員	<p>は、質疑も含めそれぞれ委員の皆様からご意見をいただくという形で進めたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>(了承の頷き)</p>
会長	<p>それでは、そのように進めさせていただきます。</p> <p>議題(1)「令和4～5年度の産業振興施策について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>はじめに、本日の資料について確認させていただきます。会議の次第以外に資料として2点事前に送付させていただいております。</p> <p>資料1として「令和5年度提言書のアウトライン」、資料2として「令和4～5年度の産業振興施策について」、そして、先ほどお配りしました「中小企業サポートセンター相談事例集」でございます。過不足などございませんでしょうか。</p> <p>それでは、説明に入ります。</p> <p>資料2をご覧ください。こちらでは、今年度実施している産業振興施策の進捗状況と、前回の会議でお示した令和5年度の当初予算案に計上した施策についてご案内しております。</p> <p>まず、「1 令和4年度に実施した事業者向け支援事業の実績(12月末現在)」の項目をご覧ください。</p> <p>①の中小企業サポートセンターでございますが、12月末時点ですでに専門家派遣実績が300件を超えております。令和3年度の専門家派遣実績が306件でしたので、認知度が向上し、順調に利用が進んでいるものと考えております。なお、最新の実績として1月末現在では336件となっております。また、お手元にお配りしましたサポートセンターでの相談事例集も、上尾商工会議所と連携し、専門家の先生方のご協力もいただきながら作成いたしました。この冊子を活用し、さらなるPRに努めてまいりたいと考えております。</p> <p>その他②～④の補助金等につきましても、予算枠に対して半数以上の申請があり、資金面での補助も順調に実施できているものと考えております。</p> <p>⑤と⑥の物価高騰等対策支援金につきましては、6月の補正予算で計上して実施したものとなります。令和2年度にコロナ対策ということで同様の支援金を実施した際には、6,000件ほどの申請・給付がありましたが、今回は⑤と⑥の2つ併せて4,500件余りとなっております。今年度、市では、この支援金以外にも他の部署において介護施設や保育施設向けの物価高騰等対策支援金を同時期に実施しており、重複申請を認めておりませんでしたので、多少の母数の変動があるものの令和2年度ほどの実績には達していないと認識しております。</p> <p>また、他市でも同様の支援金を実施しているところの話を聞くと、やはり申請が伸び悩んでいるという状況で、詳細は分析しないとわかりませんが、一律給付による支援策が必ずしも事業者にとって魅力的なものではなくなっているのかなと感じているところです。今後の施策を検討する際には、このような観点も踏まえつつ立案していく必要がありますというところです。</p> <p>次に「2 令和5年度の当初予算(案)に計上した産業振興事業」についてです。</p>

前回の会議でお示した施策のうち、事業継続力強化計画策定奨励金、出展費補助金、新規就農サポーターについては予算化が叶いませんでしたが、こちらに掲載されているものにつきましては、無事に予算案として議会へ上程したところでございます。

①の中小企業サポートセンターについては、すでに別の事業でご協力いただいていた現場改善のコーディネーターなのですが、そちらの事業が一段落しましたので、より一層事業者への支援を強化していきたいという思いもありまして、来年度よりサポートセンターの専門家として登録していただき、現場改善の相談に対して対応に当たっていただくようにいたしました。こちらの現場改善のコーディネーターの方ですが、大手自動車メーカーに勤務していた経験を活かし、これまで2期4年間、6社に対して伴走型支援による現場改善を実施していただいております。本日副会長もいらっしゃいますが、飯田製作所様でも現場改善の支援に行っていたいております。今後は他の専門家さんと同様に、より広く市内の事業者へご支援いただくように体制を整えてまいります。

②のSDGs商品開発補助金と③のDX促進補助金につきましては、前回の会議でご説明した内容から少し変更がございました。財政課との調整を経て、補助率や予算総額は資料のとおりとなっております。なお、どちらの補助金も交付申請時や実績報告時には、中小企業サポートセンターの専門家の指導を受けることを必須としております。これは、専門家との相談を通して実効性のある事業計画を策定するとともに、補助事業が終了した後も更なる経営改善を図ることができるよう、交付要件として定めるものでございます。現在、交付要領や申請の手引きなどを作成しているところでございますが、事業者にとって使いやすく、かつ、経営力の向上や業務効率化が図れるような制度を目指してまいります。

続きまして、④の創業応援補助金でございます。前回の会議後、委員の皆様からのご意見を受け、制度の内容を改めて検討し、第二創業についても対象とすることといたしました。第二創業は、昨今課題として取り上げられております事業承継のひとつの形でもありますことから、これについても対象とすることで、実効性の高い補助制度としてまいりたいと考えております。

最後に⑤と⑥につきましては、年齢制限を49歳から59歳に引上げ、補助金の活用の促進を図ることとしておりますので、その効果を見極めつつ、引き続き継続して事業を実施していければと考えております。

議題（2）の説明は以上です。

会長

それでは、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

ちょうど変わり目の時代に来ていると思います。コロナ禍は完全に解決したという状況ではないですが、通常の事業活動がかなり進んでいる状況になっています。ということで、コロナ対策としての施策と新しく展開していく施策の兼ね合いをどう捉えていくか、そういった状況になってきていると認識しています。例えばそのような視点からも見ていただき、質問や意見をいただけたらと思います。

（発言なし）

会長

よろしいでしょうか、後ほどまた皆様からご意見を伺いますので、次の

事務局

議題も含めてということで先へ進みたいと思います。

それでは、議題（２）「令和５年度提言書のアウトラインについて」事務局より説明をお願いします。

資料１をご覧ください。最初に「中小企業支援」の分野についてご説明いたしますが、中身については事前にご覧になっていらっしゃるかと思いますので、いくつかポイントを絞って説明させていただきます。

資料上段には、前回の会議でいただいたご意見の要旨と中小企業を取り巻く環境や抱えている課題についてまとめたものを掲載しております。

事業者においては、コロナ融資の返済に加え物価高騰など、依然として厳しい状況にあり、政府による賃上げの要請なども含め、事業者の自助努力や補助金などの資金供給では対応に限界があることから、これまでの経営・投資戦略を見直すなど、事業そのものに目を向けた支援の充実が求められているところと考えております。

そのため、資料の中段に「求められる施策」として、中小企業サポートセンターによる専門家相談の充実を図り、事業承継などの大きな課題に対しても、切れ目なく適切な支援機関につないでいけるような、あるいは専門家同士で連携できるような体制に強化してまいりたいと考えております。

一方で、令和５年度の当初予算要求を進めていく中で、コロナ禍による経済停滞も一服していることから、これまでのように国や県の交付金を活用して事業を実施していくことが難しい局面にも入ってきております。そのため、「求められる施策」のところでも、補助制度は維持していきたいと掲載しておりますが、これまでのように新しい支援策を打ち出していくというよりも、既存の補助制度をブラッシュアップして育てていくというような取組へとシフトするような形になっていくものと考えております。

また、支援施策の在り方や社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて事業のスクラップ・アンド・ビルドを行うことも視野に入れる必要があるとも感じております。いずれにしろ、そのときそのときで状況を的確に判断し、「知識の支援」と「資金の支援」の両輪で事業者をサポートしていくという姿勢は継続してまいりたいと考えております。そこで、提言案は「事業者の持続的な成長を促すための支援体制の充実」とさせていただきます。

今般の議論のポイントとしては資料下段に掲載しておりますとおり、コロナ禍から物価高騰などへと社会状況が変化しつつある中、このような施策の方向性で妥当かどうか。事業者の持続的な成長を促す具体的なアイデアなどもございましたら、ご意見を頂戴したいと考えております。よろしくお願いたします。

「中小企業支援」について、説明は以上となります。

次に、資料１の裏面「地産地消とにぎわいづくり」について説明をいたします。こちらは農業に関する内容がメインとなっております。

先ほどと同様に、資料の上段には農業が抱える課題や前回の会議でいただいたご意見の要旨をまとめております。

農業においては、遊休農地の増加や都市化の影響から農地自体が減少傾向にあるため、新規就農を促進し、新しい発想や販路開拓により農業の活性化を図っていくという流れがあります。しかしながら、新規就農者の数が少なく、膠着状態にある農業を打開できるような施策の実施には至っていないのが現状です。

そこで、資料中段「求められる施策」として、上尾市の農業・農産物を市内外へPRする手法を検討・実施し、販路の拡大や新規就農へとつなげられればと考えております。提言（案）は「上尾の農業がもつ魅力やポテンシャルの掘り起し」とし、中小企業支援と同様に新しい施策というよりも、既存の農業のポテンシャルを再認識し、それをうまく活用することで農業の活性化を図っていく、都市近郊型の農業の強みを発信していくことが必要であると考えております。

議論のポイントとしては、掘り起こした魅力をPRする際に、消費者に対して行うものと、農業者あるいは他の業種の方に対して行うものとは手法が異なると思いますので、それぞれどのようなアプローチが効果的か、アイデアをいただければと思います。

また、農産物を市場出荷するのが難しいということでしたので、食品工場や飲食店との連携により、ある程度限定した形で農産物を活用したメニューや商品を開発するといったことも考えられますので、それを実現するためのアイデアや手法などもございましたら、こちらも併せてご意見をいただければと思います。

説明は以上となります。

会長

ありがとうございます。

項目としては「中小企業支援」と「地産地消とにぎわいづくり」の2つとなっております。新しい委員さんもいらっしゃいますので少し補足説明いたしますと、もともとはこの2つの分野でそれぞれ専門部会がございました。ここ数年はコロナ禍の関係で開催が難しいという状況がございましたので、全体会議としてこの2つの項目について議論していくという形になっております。専門部会についてこれからどうしていくのかということについては、別途在り方や事務局の体制なども踏まえて検討していかなければということもありますが、ここでは後の課題ということとしまして、そういう経過がある中でこの2つの項目が立てられている、提言書についてもこの2つの項目を中心として提言をする、という形になっております。

それでは、まず質問事項です。事務局で基本的な提言案を作っていただきましたが、質問がございましたらお願いいたします。

(発言なし)

会長

よろしいでしょうか。

この会議においては、委員の皆様のご経験を踏まえてできるだけたくさんの方の意見をいただくということが非常に大事でございます。それぞれ委員のバックグラウンドによって「中小企業支援」が中心という方もおられますし、「地産地消とにぎわいづくり」が中心という方もおられると思います。どちらからでも結構でございます。自由に感想でも結構ですし、質問でも結構です。ご意見についてお一人お一人から頂戴したいと思います。

それでは●●委員からお願いします。

委員

私も産業振興会議に携わって長いものですから、いろいろと現地を視察したり、先生と一緒にそういった経験をさせていただきました。私は工業の立場ですが、産業として商業や農業と分野がいろいろとあるわけですが、

皆様ご承知のとおり、今各地で農産物などを販売している道の駅は、そ

の地域で盛んに活用されており、私も近隣の道の駅は見てきていますが、やはり各地でそれぞれ特徴があるんですね。道の駅ですと農産物が主ですが、飲食店が入ったり、その地域で作られているものが展示してあったりなど、その土地の特徴が出ているところもあるので、上尾としても先々展開できればと思います。

今現在も、上尾では農産物を扱っているところが何か所かありますが、少し中途半端な感じがします。農産物だけでなく、上尾の産業の特徴を出せるような、特に工業は一般の方にはわかりにくく、同業でも会社名を聞いただけでは何を作っているかわかりませんので、そういった製品の展示なども必要と感じます。年に1回、産業祭を市民体育館で行っていますが、それは短期で2日間だけです。常に一般市民の方も含めてそこで見る事ができる、経験できるといったところが上尾にあると良いなど以前から思っています。

産業は個々に違いますが、それを集約した施設として、過去の資料を見てみたら平成16年に「産業振興センター」という提言をものづくり協同組合からしています。当初はそういった形で市に提言しておりますが、特色ある場所が作られれば良いのかなという気がします。

会長

産業の総合的な情報発信拠点が必要ではないかということです。産業振興センターの話もございました。私も長く携わっておりますので、過去ご意見があったということについては承知しております。いわゆるハードの施設とするのかということとは政策的な判断かと思いますが、上尾市としてはソフトの事業をこれまでかなり発信してきておられますので、その延長線上でハードの施設をどうするのかという議論は重要かと思います。あるいは、すでにある観光情報発信拠点の有効活用ということも検討できるかなと思ってお聞きしていました。

それでは、●●委員お願いします。

委員

先月、柏市の道の駅に視察研修に行ってきました。以前の道の駅のイメージと違いお洒落な感じで、家族連れで来ても、子供たちが走り回って遊べるような感じで、こういうところが上尾にもあったらなと思ってお見していました。施設の中にはレストランもありましたが、メニューは4つくらいに絞ってやっているようで、これくらいなら農家の奥様たちの協力をいただきながらできるかなと感じました。柏市と上尾市の人口の違いなどもあります。このような施設があったら良いと思ってお見しました。

会長

先ほどもありましたが、やはり道の駅というのは情報発信拠点とか交流拠点ということかなと思います。そういったことの重要性という話であったと理解をいたしました。規模などについてはそれぞれの自治体や地域の実情に合わせていろいろな工夫はあると思いますが、このようなご意見も踏まえて今後検討も必要なかなと思います。

それでは、●●委員お願いします。

委員

中小企業支援のところでございますが、上尾市としてたくさんの補助金もご用意されていらっしゃるということで、認知もだいぶ進んだというようなお話でございました。やはり補助金の金額ですね。これを拝見させていただくと、おそらくこの補助金だけでは事業者がやろうとしているプラ

ン、計画には足りないのかなという中で、やはり民間金融機関との連携により補助金で賄いきれない部分に対して、フォローする体制が必要なのかなと思います。

加えて、知識の支援という観点からも、コーディネーターという形で専門的な方を運用されているところだと思いますが、金融機関においても本部機能であり、グループ関連機能であり、あるいは金融機関外の事業会社とのビジネスマッチングという中で、多岐にわたるニーズに応えられるよう深く連携しながらやっていると、幅広く深くご対応できるのかなと考えました。

あともう1点、地産地消とにぎわいづくりでございますが、質問なんですけれども、今、上尾市の学校であったりとか、市の庁舎であったりとか、そういったところで給食や食堂があると思いますが、上尾市で作られた食材等については活用されているものなのかということをお聞きしたかったのと、食育という観点からも、例えば上尾市で作られたものを給食で出すとか、そのような取組を通して上尾市ってこういうものを作っているんだなという意識が芽生えてくる、地産地消に対する基盤といいますか、裾野を広げていくということについては、有効じゃないかなと思いました。

会長

3点重要なご意見いただきましたが、まずはご質問に関わる部分、給食において食育ですね、地産地消など連携されているような施策を実施されているのか、教えていただければと思います。

事務局

学校との連携、地産地消ということで、教育委員会では年に数回、上尾市で生産されたお米を使った献立を全校で実施していると話は伺っております。また、野菜につきましては、各学校で近くの農家さんから生産された農産物を納品していただいているところです。すべての小中学校が実施しているということではないのですが、一部の学校ではそういった取組も行い、地産地消を推進している状況です。

やはり子供たちに対して、上尾でこのような新鮮な野菜が作られているということも非常に大切な教育の一環ですので、農政課としても引き続き教育委員会とは連携を強化していき、学校の近くにある農家さんの紹介など、今後取組を進めていきたいと考えています。

会長

今お話しいただきましたが、その食育の中に地場産品を取り入れていくというのは非常に重要なことだと思います。このような施策に積極的に取り組んでいる自治体もありますが、地元に対する地元愛、地元に対するアイデンティティを小さいときから育てていくということにより、農業、農産物の発展に繋がっていくと思いますので、非常に大事なポイントだと私は思いました。

それから1点目につきまして、特に地域の金融機関と行政の連携は、中小企業支援において非常に大事なポイントだと思います。事業は自己資金と融資がどうしても必要ですので、自己資金の一部については、補助金などが使えるわけですが、それだけでは成り立たないこともあるということです。そこはやはり地元の金融機関のご協力、連携がしっかりとできているということが大事だということで、おっしゃるとおりだと思います。お互い情報提供するという信頼関係ができれば、それが進んでいくものと思います。中小企業サポートセンターの拠点のひとつとして、そういった取

委員	<p>組をさらに進めていく必要があるということでお聞きしていました。</p> <p>それから2点目、相談機能についても中小企業サポートセンターと連携していく意識を地元の金融機関さんに持っていただくことが非常に大事だということで、再度確認していければと思います。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p> <p>私は2点ありまして、まず中小企業支援の関係です。いろいろな補助金が支給されている中で、専門家の指導を受けることが条件になっているものもありますが、どのような専門家のニーズが一番多いのか、実際指導を継続していく中で、どのような成果があったのかというところを教えてください。</p> <p>2点目は農業の分野ですが、地産地消とにぎわいづくりということで、私の実家も米農家をやっておりますが、非常に新規就農者が少なく、やはりいろいろな理由があるかと思います。長時間労働だとか、なかなか賃上げも難しい業種ですし、今の若者、うちの社員を見ていると、Z世代といえますか、非常に合理主義的でタイムパフォーマンスを重視するという中で、日本の農業は大丈夫なのかという危機感もあります。資料には、学生の柔軟な発想、アイデアを具現化ということが求められる施策で書かれていますが、なかなか理想は高いと思いますが、実際にどんな反応を想定しているのか、わかる範囲で教えてください。</p>
会長	<p>2点ありました。専門家の指導の実績について、それからアイデアの具現化ということで、現在の状況を事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>数字で見ていただくのがわかりやすいかと思います。資料2の中小企業サポートセンターのところ、303件の専門家派遣実績がございました。</p> <p>12月末時点の数字になりますが内訳をご覧くださいと、一番多いのが補助金申請を含む経営総合相談でございます。具体的には、補助金を申請するに当たり事業計画や経営革新計画を作成する必要があるなどのほか、先ほども上尾市の独自の補助金で専門家相談を要件にするというお話をさせていただきましたが、そういったものがこちらの経営総合相談に入っております。</p> <p>実績としては、本日お配りさせていただいた相談事例集がわかりやすいと思います。この相談事例集は、先ほどの内訳のとおり経営総合相談であったり、DXだったり、販路相談だったり、6つのカテゴリに分けてそれぞれ事例を挙げております。具体的な内容としては、表紙を開いてすぐの経営総合相談とDX相談が、最も件数の多かった経営総合相談の実績として見ていただくのにちょうど良いかと思います。例えば、チャーリーさんでは、輸入した珍しい手芸用の用品をネット販売している個人事業主ですが、糸を扱うだけではなくて体験教室などを行って販路拡大をしていきたいというご相談があったものでございます。内容は後ほど読んでいただけたらと思いますが、今回こちらの方については、オンラインのコンテンツを作成するというところで、上尾市の頑張る事業者サポート補助金という独自の補助金を活用させていただいております。</p> <p>また、隣のページのDX相談ですが、清水商会という自転車屋になるんですが、こちらの事業者は、今年10月から始まるインボイスの制度を見据え、それに対応できるようなPOSレジなどを導入したいというような</p>

	<p>ご相談があったものでございます。こちらもやはり頑張る事業者サポート補助金を活用していただき、POSレジの導入などに活用いただいております。</p> <p>これまでご説明をしてきておりますけれども、サポートセンター自身が知識の支援という専門家の支援だけではなく、上尾市が用意している補助金をうまく活用していただきながら、資金の支援も含めて両輪でサポートしていくというような体制を整えている事例になるかと思えます。</p> <p>まだ具体的にアイデアというのは出ておりませんが、まず令和5年度で手始めにやっていきたいというものがございます。上尾市の特産物として有名なものでキウイフルーツ、県内でも有数の産出量を持っておりますので、キウイフルーツを活用したレシピを創作できたということ、市内の中学生を対象に募集をかけていきたいと考えております。優秀なものは表彰するなどして、今後地産地消ということでPRを図っていきたいと考えております。これから具体的なスキームを考えてまいりますので、現時点ではこのように考えているところです。</p>
事務局	
会長	<p>それでは、●●委員お願いします。</p>
委員	<p>仕事柄、特に事業承継に関して相談を受けることがここ数年多いと感じております。ちょうど先代の方が昭和30年から40年頃の高度成長期に事業を始められて、そのご子息である方が40歳代～50歳代になっているという似たような年齢構成といえますか、市内の中小企業者の方が多のかなという中で、このまま承継していいものなのか、あるいは、違う方向に進んだらいいのか、ということで相談を受けることがよくあります。税の面ですとか、法律の面ですとか、多々あるかと思いますが、そういうときに背中を押してあげる方とか、話を聞いてあげる方とか、あるいは専門的な見地からご助言していただけるような体制といったものはニーズが結構多いのかなと感じております。</p> <p>そういう意味で中小企業サポートセンターにはいろいろありますが、垣根を越えたよろず相談という心強い組織だと思っております。私の分野は税の世界ですので、税の中でも事業承継税制などいろいろなものを用意してはありますが、やはり最後は本人がこのままやっという一歩を踏み出せるか、あるいはもうここで見切りをつけて、違う仕事に移ろうかというところなんです。違う仕事に行ったとしても、それはそれでまた新規創業ということで違った形のサポートがありますし、このまま行くのであれば、それはそれでいろいろなサポートがあるということで、中小企業サポートセンターには、ぜひ多方面にわたって相談の相手になっていただけるような充実をお願いしたいと思っております。</p>
会長	<p>事業承継は非常に大事なテーマになっているかと思えます。経営者の高齢化も進んできているという中で、いかに社会にとって大事な資産である企業やその経営活動を承継していくのか、非常に大事なテーマだと思います。中小企業サポートセンターを中心として活用していくという、それも委員がおっしゃったとおりだと思います。その中で会計のご専門であったり、経営のご専門であったり、そういう人材をいかにうまくコーディネートして活用していくかということで、それは非常に重要だというお話であ</p>

委員	<p>ったかと思えます。 それでは、●●委員お願いします。</p> <p>中小企業支援について、この相談事例集をいただいたので見ていたのですけれど、今まで補助金やいろいろな支援がある中で、具体的にどのような活用されているのかがいま私の中で結びつかないのですが、こちらを見ると、具体的な支援とその支援を受けて取り組んだことが書かれていましたので、すごく参考になりました。</p> <p>それから、地産地消については、先ほど委員さんが道の駅ということをおっしゃっていましたが、やはり道の駅も古いタイプ、昔からあるようなイメージではなく、総合的に農産物だけでなく多方面で、先ほどのものづくりの分野もとありましたが、目で見てわかるということでは、とても興味深いと思えました。</p> <p>それと関連して、6次産業とよく言われていますが、各地での成功事例などを見ていると農産物の生産だけでなく、それを利用して、先ほどキウイという話も出ましたが、加工して新しい広め方をしていく。多方面から市内の関係者が関わって商品を作り上げるというのなかなか面白いし、それで付加価値がつくこともあるのではないかなと思ったのが一点。</p> <p>それから、若い人たちの柔軟なアイデアというところで中学生という話も出ましたが、近くに大学などもありますので、産学連携という形でいろいろな商品がもうすでにあると思います。コラボでの商品化は、高校生が携わっている地域もありますけど、そういうことも面白いかなということと、ただ学生だけでなく、本当に奇抜なアイデアを出す若者をどのように発掘するか、なかなか得る機会というの具体的な難しいとは思いますが、これからは必要になっていくのだろうなと思っています。</p>
会長	<p>やはり道の駅の話がございましたが、産業横断的といいますか、産業だけに限らず、様々な交流を含めた複合施設の持つ重要性、有効性ということを考えていく必要もあるのかなと思えました。</p> <p>それから6次産業、あるいは農商工の連携でございますが、いかに1次産業、2次産業、3次産業を結びつけていくのか、引き続き非常に重要なテーマであるということかなと思います。その中で、学校との連携、教育現場との連携も非常に大事だということで、先ほど食育のお話もありましたが、市であれば小中学校については同じ組織内で連携の可能性が非常に高いわけですから、そういったこともしっかり進めていくことは、やはり大事なのかなと。もちろん大学、高校も含め、子どもたちの参加が重要だという話だったと思います。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>
委員	<p>まず資料2の関係です。中小企業サポートセンターについて、非常に精力的に活動されているという実績なのかなと思って報告を聞いておりました。これまでいろいろな企業にお話を聞くのが重要だということをおっしゃっていただきましたが、それを実践されていて、それだけでなく伴走で企業に寄り添った形で支援をしていくということで、非常によろしい活動と思って聞いておりました。</p> <p>もう一つは、事業継続力強化計画の奨励金について新年度の予算がつかなかったというのは少し残念なのですが、サポートセンターにもBCPの</p>

関係の相談が多いようですので、そういったところを手厚く、引き続き相談に乗って差し上げるという体制をとっていただくのがよろしいのかなと感じております。

続きまして、資料1の中小企業支援の関係でございます。資料の下段のところに議論のポイントということで、2つのポイントをご提示いただいておりますが、中小企業支援の提言案の方向性については、これでもよろしいのかなと思っております。現状、振り返ってみますと、おそらくコロナが落ち着いてきたというところで、この夏ぐらいからゼロゼロ融資の返済が懸念されると言われております。そのあたりはサポートセンターや商工会議所、地域の金融機関と連携して対応していただくのかなと思っております。

一方で長期的な面では、コロナが一段落して、DXやGX、カーボンニュートラルに関係したSDGsの補助金も今回立ち上げられますけれども、長期的な目線で中小企業その挑戦をサポートするような取組も引き続きやっていただく必要があるのかなと思っています。国でも、事業再構築補助金を用意してございます。デジタルとかグリーンのところは少し上乗せになるような制度となっておりますので、うまく使っていただけるような促しをしていただけるとよろしいかなと思います。

もう1つ、インボイスの話も書いてありますが、こちらについてもサポートセンターに積極的に動いていただくというのが大前提でございますけれども、国でもIT導入補助金がございます。相談事例集でもタブレットを使ってインボイスの、というような写真がありました。IT導入補助金を使っていただくことも視野に入れていただければと思っています。今回、補助金の下限を撤廃しておりますので、小さい金額でも使いやすくなっているという工夫もしておりますので、ぜひご活用いただければと思います。

最後に、地産地消のところは農業分野なので私どもは得意分野ではないのですが、少し関連するお話をすると、経済産業局では、食品ロスとか、今後世界的に食料不足になっていくというような観点でフードテックのコミュニティを立ち上げております。食品関係の事業者と、IT技術を使いたいいわゆるスタートアップの企業とのマッチングを図っていくのですが、そのような分野に関心のある自治体、関係機関、金融機関にも入っていただくようなコミュニティを立ち上げておりますので、地産地消について直接的ではないかもしれませんが、もし関心があればコミュニティに参加していただけますし、事例をご紹介できるかと思っておりますので、お声掛けいただければと思います。

会長

今のお話をお聞きしながら2つのことを考えていましたが、1つは中小企業サポートセンターの重要性です。これだけの体制を自主的に整えられている自治体というのは非常に少ないと思います。体制をつくって、実際に自主性を持ってサービスをしっかりと育てていく、活用していくということは、すごく大事だと思いました。

2点目は、やはり新しい施策については、行政がしっかり取り組んでいくということが大事だということです。役割分担をしていくといったことも大事かなと。それで軌道に乗ってくればサポートセンターに移管していくといったような戦略的なところも必要です。

その流れの中でいくと、いわゆる緊急対策ということでコロナ対策とし

	<p>て交付金が国から来たということもありましたが、その緊急的な取組と通常の将来に向けた取組を整理しながら、ここ数年実施されてきたと認識をしています。それはやはりすごく大事なことだと思いますので、少しメリハリをつけるといいますか、取組を整理してアピールしていくことが、産業政策の重要性を庁内的にアピールしていただく1つの方策ではないかなと考えておりました。</p> <p>それでは、オブザーバーをお願いします。</p> <p>先ほどから聞いておりました、やはり中小企業サポートセンターの重要性について改めて認識したところでございます。サポートセンターも2年目に入りまして、当初は1年間で300件程度の数字でしたが、1月現在で336件、最新の数字で3月15日現在で399件まで伸びており、このように見ますと、やはりその重要度が伺えるのかなと思っているところでございます。</p> <p>いろいろ相談項目もありますが、今までは補助金や支援金などに関する専門家相談が多く、企業を守る施策といいますか、そのようなところが重要視されていると感じておりました。コロナも3年経って落ち着いてまいりまして、来年度は企業を成長させる施策が大事なのかなと思っているところでございます。その中で、サポートセンターでは各種相談別にありますが、事業承継や労務に関しては非常に弱かった部分だと感じています。令和5年度におきましては、埼玉県事業承継・引継ぎ支援センターやハローワークなどといった機関があるので、そういうところと連携しながら、幅広い課題への対応を進めてまいりたいと思います。</p> <p>また、先ほどの金融機関の皆様からもありましたが、補助金は3分の2とか2分の1しかカバーできません。あとは自己資金、あるいは金融機関からの借り入れとなってきますので、このような部分も市内の金融機関と連携をして、幅広いサポートに徹してまいりたいと考えております。</p> <p>3年目になりますので、いろいろな分野の専門家も入れながら、幅広い課題を克服すべく、上尾の成長に少しでもお役に立てればと思っているところでございます。</p>
<p>オブザーバー</p>	
<p>会長</p>	<p>中小企業サポートセンターの現状を非常に詳しくお話いただきました。これからさらに充実していくことの必要性、それから金融機関との連携ですが、これが非常に大事だということです。</p> <p>それでは、●●委員をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>まず中小企業支援ですが、資料の1、意見要旨の一番下のところですが、事業規模や課題によって専門家同士の連携や外部の支援機関に適切に繋ぐことが重要で、皆様おっしゃっていたように、金融機関など外部の支援機関と連携してどのようにサポートしていくのか、これから大切になってくると思いますので、中小企業サポートセンターの中だけでなく、そういった課題を解決していくための伴走者として、より一層協力しながら進めていければ良いのかなと思っています。</p> <p>2つ目の地産地消とにぎわいづくりでございますが、皆様の意見をいろいろ伺いながら思ったのですが、提言案としてお示しした内容ですと、地産地消とにぎわいづくりが農業部門に偏っているといいますか、そこからの目線でしか見ていないような感じがしてございまして、道の駅でも多方</p>

<p>会長</p>	<p>面化して6次産業が入っているとか、あるいは前回のご意見でもありましたが、人流が少ないと街が栄えない、やはり人を増やしていかなければいけないと。そのためには中心市街地の活性化というのも重要なファクターになると思っておりますので、そういった部分も含めて地産地消とにぎわいづくりを捉えていく必要があるのかなと感じたところでございます。</p> <p>中小企業サポートセンターの重要性、それと上尾の組織だけではなく、外部の組織と連携してうまく活用していくということもコアになっていく、という話として理解いたしました。</p> <p>それから、人流の重要性です。これは観光政策とも結びついてくると思いますので、そういったことも含めて1つの拠点を形成するといいますが、その拠点がどういう意味を持つものかというのはまた別途議論が必要かと思っておりますけれども、そのようなお話だったと思います。</p> <p>それでは、副会長お願いします。</p>
<p>副会長</p>	<p>やはり今、●●委員が言ったとおり、まずは中心市街地をいかにするのかというところで、人流を戻すということがとても大事ではないかと思われました。やはり青写真をしっかりと作っておいて、それからいろいろな施策を打っていくということがとても大事なんじゃないかなと。やはり魅力ある上尾市にすることで、よりUターンIターンといった形で人が戻ってくるし、集まってくる。そうすると産業が活性化するということです。</p> <p>今、製造業においては人がいない、人を募集しても入ってこない。若い人はどちらかという都会の方に行ってしまう。廃れていく可能性、やはり人口がどんどん減っていくという状況というのは、魅力がないというのが前提に出してしまうのかもしれないと感じております。</p> <p>上尾市には、駅前や郊外問わず、大人数を集客できるコンベンションホールみたいなものがまったくありません。やはり3人寄れば文殊の知恵ではありませんが、1,000人、2,000人が集まってご意見等々ただけるような場所というのはやはり必要ではないかと思っておりますので、箱物は非常にお金も時間もかかるのですけれども、そのような人が集まれる場所、施設を作ることにより活性化を図っていくということも大事ではないかなと思っております。それに伴って産業がどんどん成長していく、そのようなイメージがあるので、ぜひとも第一歩目は、大きな青写真を作って上尾市はこれだけのことができるというのを打ち上げてから、それを実直に回していく、そのようなイメージがとても良いのではないかと思います。今日の会議臨ませていただきました。</p>
<p>会長</p>	<p>非常に重要なポイントとして、1つは市の政策全体の中で施策を考えていくということです。街づくりにも関連しますが、それが1つあったかと思っております。それから、コアになるような施設というのも中長期的に考えていく必要があるのではないかと話だったと理解をいたしました。</p> <p>この会議は結論を出すという会議ではございませんので、それぞれご意見を出していただくということでもよろしいかと思います。私からもその都度言わせていただいておりますので、特に私が加えて申し上げるということはないのですが、1つ、方向性の話として、これから提言書を作っていくということで、提言の内容もこれで良いかなと思っております。ただ、先ほど話した中で、例えば中小企業支援について提言案はこれで良いのです</p>

が、やはり少しアピールをしていくといえますか、戦略的にこれから進めていかないといけない部分をしっかりと示せるような、すでにそういったことをここ数年されているかと思っておりますので、それを思い起こしていただいて、少し戦略的に進めていただくとすごく良いと思います。これは地産地消とにぎわいづくりについても同じことが言えるかなと思っています。

私から1つだけ個人的な意見ではありますが、以前から気になっていることがございまして、地産地消とにぎわいづくりで委員がおっしゃったことだと認識していますが、半農半Xというライフスタイルが注目されつつあり、新規就農の1つの手段として議論が必要というところです。農商工連携や6次産業化なども非常に大事だと思いますが、上尾の特色を考えたときに都市近郊型という性格を持っておりますので、やはりこの半農半Xに取り組みたいという方も少なくないと思います。そのようにして作られているものを家庭内で消費するだけでなく、少しそれをマーケットに繋げていけるような、例えば道の駅というお話もありましたが、そういう拠点施設であったり直売所であったり、そういったものを農業専門にされている方でなくても活用できるような仕組みを作れば、潜在的にある生産能力が顕在化してくるのではないかなと思います。

これは上尾だから、上尾が都市近郊だからということですが。農業を専門にしているような地方ではまた違う議論になってくると思いますが、そのあたりを少しご検討いただくことができれば良いかなと思っております。ここは私も本当にわからないところがあるので、既存のいろいろな流通の仕組みなどがあって、そことの関係性などといった部分もあり、絶対というのはなかなか言えないのですが、いわゆる市場性といえますか、農業においても産業という視点から市場の中で価値のあるものを作って、付加価値を高めて売っていくということが重要だと理解しています。そういった仕組みを少しずつ取り入れていくことが必要かなと感じているところがございます。少しだけ私の個人的な意見として付け加えさせていただきます。

それでは、皆様からいただいたご意見については、事務局でできるだけ取り入れる形で提言書を整えていただけたらと思います。

最後、その他ということで、今後の提言書の具体化に向けた進め方を教えていただけますか。

事務局

今後のスケジュールですが、来年度6月から7月頃に、提言書案を皆様にお示しできればと考えております。最終的にそこでご意見をいただき、今年度と同様に8月下旬に会長から市長へ提出していただくという流れを考えております。この提言書についてはそれで一段落しますので、また次年度の提言書に向けて11月頃と2月頃と議論をしていくこととなります。

加えて、産業振興ビジョンの改定も控えております。本格的な改定作業は、令和6年度から7年度を予定しておりますが、令和5年度中にその改定に先立って、基礎的な調査や現行のビジョンの進捗確認、評価検証を行っていく予定でございます。とりあえず直近、次回の会議では、この提言書案の確認とともに、現行のビジョンの進捗状況等についてもご意見をいただければと思います。

会長

ビジョンの改定に向けて大事な時期にも関わってくるということですので

<p>事務局</p> <p>副会長</p>	<p>で、皆様からの声がますます重要になってくるかなと思います。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上で議事を終了いたします。</p> <p>進行を事務局にお返しいたします。</p> <p>3 閉 会</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後に副会長から閉会のご挨拶をお願いいたします。</p> <p>(閉会の挨拶)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----------------------	--